

仙教音楽

本願寺仙教音楽・儀礼研究所 ニュース"レター

特集：『宗祖讃仰作法 音楽法要』の修行にむけて



讚歌集二部合唱

親鸞聖人 750 回大遠忌法要を控え、お待ち受け法要が各地でお勤まりになっています。それに伴い、本願寺仏教音楽・儀礼研究所（以下「研究所」）でも、『宗祖讃仰作法 音楽法要』についてのお問合せが、増えてきました。今号では、『宗祖讃仰作法 音楽法要』の修行に際しての特集をお届けします。

みんなで勤められる音楽法要を

——時代に即応した法要として

『宗祖讃仰作法 音楽法要』は、昨秋ご制定となった『宗祖讃仰作法 第三種』をもとに、一般寺院における親鸞聖人 750 回大遠忌お待ち受け法要を念頭において、構成されています。

『宗祖讃仰作法 第三種』では、その策定にあたり、大衆唱和とすることと、西洋音楽を用いることが、基本方針として盛り込まれました。「大衆唱和」という基本方針は、「参詣者の法要への積極的な参加」が念頭におかれています。そして「西洋音楽による」との方針がとられたのは、西洋音楽が今日の社会での一般的な音楽文化となっており、かつ宗門において、合唱活動が盛んなことによります。

その結果、『宗祖讃仰作法 第三種』は、いわゆる音楽法要としてご制定に至りましたが、その完成までには、いくつかの解決せねばならない問題もありました。なかでも、重視されたことのひとつに、従来の音楽法要に付随する「敷居が高い」というイメージの払拭が挙げられます。具体的に述べますと、西洋音楽の専門的な技術が必要であるとか、讃歌衆（合唱団）が無いとできない、といったイメージの払拭です。



左から経本、楽譜、練習用CD

確かに、これまでの音楽法要は、学生やお寺の合唱団をイメージしてつくられました。そのため、西洋音楽に関する知識や技術を要求するものであったことは、否めません。ですから、先に挙げたようなイメージも、当然なものといえるでしょう。そして実際に、芸術音楽つまりクラシック音楽に分類される合唱というスタイルが主流であったため、専門的な技術も必要とされており、確かに敷居の高いものでした。

しかし、西洋化した今日の音楽文化とは、クラシック音楽ではなく、演歌や J-pop（歌謡曲）などのポピュラー音楽です。つまり、皆さんが日頃聴いたり歌ったりしている音楽、みなさんの日々の生活とともにある音楽なのです。その点に鑑み、作曲にあたっては、親しみやすさなども考慮し、ポピュラー音楽的な書法によることとなりました。

『宗祖讃仰作法 音楽法要』もこのような性格を受け継いでおり、皆さんにとっても、親しみやすい作法となっているでしょう。とはいえ、もちろん音楽としての質の高さが考慮されていることは、いうまでもありません。カラオケでも、曲をきち

んと覚えたり、技術的な向上をはかるには練習が必要なように、この作法でも、質の高い法要とするには、練習が必要です。

音楽的な編成について

『宗祖讃仰作法 音楽法要』（以下「本作法」）では、出勤僧侶と参拝者のお勤めに加え、ピアノまたはオルガンによる伴奏、讃歌衆による合唱、雅楽器による付楽も盛り込まれています。

伴奏について

伴奏は、オルガンまたはピアノとなっています。ただし、楽譜左端のパート名が記された部分で、ピアノとオルガンの間に「or」とあるように、伴奏楽器には、どちらかひとつを選んでください。両方を同時に弾くようには、書かれていません（音が重複し、音楽的な構成が崩れます）。

伴奏楽器の選択基準としては、会場の音響や雰囲気、出勤僧侶や参拝者の慣れ具合、などが考えられるでしょう。

また、伴奏に関して注意すべき事柄としては、僧侶と参拝者の声が、

音楽的な中心である、ということが挙げられます。オルガンやピアノに合わせて唱えるのではなく、皆さんの声に合わせて、伴奏するように心がけてください。

演奏時の音高設定について

雅楽を依用する際、まず考慮すべきは、音のピッチ（高さ）です。今日、西洋音楽では、A=440Hzとする場合が多いのですが、雅楽では伝統的なA=430Hzが一般的です。

つまり、雅楽と西洋音楽をそのまま同時に演奏しても、美しい響きとはならないため、どちらかに合わせる必要があります。現実的には、ピッチ調整機能付きの電子ピアノなどを用いて、合わせることになるでしょう。

発声について

本作法の修行にあたっては、西洋音楽によるおつとめだが、発声はどうしたらよいのか、という質問も、研究所に寄せられています。

おそらく西洋音楽ということで、オペラなどで聴かれるような発声をイメージされていると思われます。しかし、先にも述べましたように、いわゆるクラシック音楽が念頭にあ



楽譜：上段より雅楽器、調声と同音、讃歌衆、ピアノ、オルガン

るわけではないので、出勤僧侶の方々には、普通に経文を唱えるよう、そして参拝者の皆さんには、普段おつとめされているときのような、発声してください。

合唱を担当される讃歌衆の皆さんは、普段の練習通りの発声で結構です。ただし、宗教儀礼に相応しい声を心がけるようにしてください。

宗教儀礼として

その他、讃歌衆の服装や立ち位置

などについてもお問合せいただいております。これらに関しては、特に定められているわけではないので、各ご寺院の状況に合わせ、ご判断いただくことになります。ただし、その際には、音楽法要も、まずもって他の法要同様に「仏祖を礼拝供養し、経典を誦誦し、仏徳を讃嘆して、報恩の至誠を表す」ために行う儀礼であることを、肝に銘じたいものです。

指導員と練習用CDについて

本願寺仏教音楽・儀礼研究所では、『宗祖讃仰作法 音楽法要』の普及に向け、指導員の派遣と練習用CDの配付を行っています。

指導員については、合唱団の指導など、仏教讃歌関連の実績があり、かつ宗教儀礼の面からも音楽法要の構築に実績のある方に、研修会を受けていただいた上で、お願いしています。

現在、次の4名の方々にお引き受

けいただいております。

大分哲照さん

(福岡教区西嘉穂組明圓寺)

南莊 宏さん

(東京教区静岡西組教覺寺)

野村佳代さん

(兵庫教区北摂組光圓寺)

廣濟兼壽さん

(安芸教区安芸北組廣濟寺)

教区や組における各種研修会をはじめ、実際の修行に向けての研修等の際し、指導員の派遣をご希望の方は、教学伝道研究センターまでご連絡ください。

練習用CDについては、模範実演をはじめ、オルガン伴奏など、各種の練習を想定した構成となっています。ご希望の方には、無償で配付しておりますので、こちらも教学伝道研究センターまでご連絡ください。

交響讃歌《親鸞》を聴く——相愛大学 相愛オーケストラ御堂演奏会

10年におよぶ大修復が完了し、御真影様もお戻りになった本願寺御影堂。その修復完成と、来る親鸞聖人750回大遠忌を記念する演奏会が、9月20日、御影堂で行われました。

曲は、相愛学園創立120周年記念委嘱作品の交響讃歌《親鸞》(2008年初演)。作品のテーマはもちろん親鸞聖人ですが、作曲の大前哲(相愛大学音楽学部教授)さんによれば、この作品は宗教音楽ではなく、「人間親鸞へのオマージュ」として書かれています。

自分は宗教家ではないから、親鸞聖人のみ教えを理解することはなかなか難しい。でも、聖人が歩まれたご生涯の厳しさや斬新さには、一個人として尊敬の念を持っている——という作曲者の思いが、この言葉に反映されています。

曲は、3楽章からなっています。第1章〈道程〉と第3章〈光明〉は、大前さんが一貫して取り組んできた現代的な書法による、オーケストラのための音楽。第1章では越後へ流罪となった親鸞聖人が海辺や山道を一步一步進まれる様子が、第3章で

はその苦難の歩みの中でも聖人が持ち続けられたであろう明日への希望が表現されます。

それに対し、第2章〈讃歌〉は九條武子さま(1887-1928、第21代門主明如上人の次女)の詩「心の合掌」を歌詞とする合唱曲です。白鳥芳郎作曲の仏教讃歌で知られるこの詩は、親鸞聖人を直接的に謳ったものではありません。しかし、「詩に込められた仏さまへの絶対的な信頼や、詩そのものの奥ゆきの深さ」(大前さん談)などから、この楽章に用いられることになりました。詩の性格にそって、〈讃歌〉は大前さんには珍しく調性音楽によっており、シンプルながらもハーモニーの美しい作品となっています。今回は女声合唱による演奏ということもあり、曲の持つ透明感が一層高まっていたように思われました。

御影堂での演奏というご縁を、大前さんは「親鸞聖人はどのように聴いてくださるだろうか」と喜んでおられました。当日は彼岸の入りでもあり、御影堂にはたくさんの方々が参拝に訪れていました。親しみやすい第2章に比べると、現代音楽



作曲家 大前哲さん

の語法で書かれた第1章と第3章は、よく練られた構想に基づいた高度な音楽と受け止められたようです。演奏した相愛オーケストラ(相愛大学音楽部の学生や教員によって編成された管弦楽団)のメンバーも、練習を始めたばかりの頃はやはり戸惑いが大きかったそうですが、大前さんは演奏するのであれ聴くのであれ、「理解する」という態度で臨むのではなく、まずはここに描き出された親鸞聖人のお姿を、それぞれの想像力で「感じる」ことからスタートしてほしい、と話してくださいました。

交響讃歌《親鸞》は、10月には広島でも演奏されました。大遠忌に向け、更なる演奏機会が望まれるところです。



第2章〈讃歌〉



演奏会の模様

心の音楽家 伊藤完夫 — 音楽法要の先駆者

伊藤完夫（1906-2005）という音楽家をご存知でしょうか。日本における西洋音楽の受容史を緋けば、純正調オルガンの演奏者として、しばしばその名が散見されます。

しかしその音楽活動は、単にオルガンの演奏家という枠にとらわれず、作曲や編曲、音楽理論研究、講演など、非常に多岐にわたっていました。これは、オルガンという楽器の普及のためであれば、何にでも取り組んだ結果といえるでしょう。そうした活動は、今日、オルガン界において高く評価されています。

そして伊藤完夫という音楽家には、一般にはあまり知られていませんが、ライフワークとして取り組んでいた、もうひとつの世界がありました。

* * *

戦後間もなく、京都女子大学に音楽の教師として赴任した伊藤は、同校の学生が勤める音楽礼拝の曲をつくることになりました。このとき生まれた楽曲が、現在も音楽礼拝で唱われている《さんだんのうた》や《ち



仏教音楽界を回想する伊藤さん



純正調オルガンを弾く伊藤さん

かいのうた》などです。以来、生涯にわたって仏教讃歌を書き続け、今日でも仏教讃歌の楽譜を開けば、いくつかの作品には、作曲者として「伊藤完夫」の名を見て取ることができます。しかもこの分野においても伊藤は、単に作曲家として曲を提供するのみならず、音楽礼拝を洗練させていくためならばと、仏教や儀礼についても積極的に取り組み学んでいたことが、自身の著作より窺えます。

* * *

ただ残念なことに、音楽界一般において伊藤の音楽は、その保守的なスタイルもあって、決して高い評価を得るには至っていません。しかし仏教音楽の歴史、特に本願寺派の親鸞聖人 750 回大遠忌において、音楽法要がつとまることを考えた時、初期の音楽礼拝に取り組んだ伊藤の存在は、決して無視できるものでは

ないでしょう。

今日ほど音楽文化の西洋化が進んでいない当時、しかもまったく新しいスタイルのおつとめ作りを任せられ、それを定着させ、さらにその普及をも成功させたことは、敬服に値します。

仏教において音楽が果たす役割を考える時、伊藤完夫という音楽家は、再び光を放つことでしょう。

伊藤完夫(いとう・さだお)

1906(明治39)年、愛知県生まれのオルガン奏者、作曲家、音楽学者。教員免許取得後、田中正平に師事し、音響学や純正調オルガンの奏法を学ぶ。京都女子大学をはじめ相愛大学、武蔵野大学で教鞭をとる。のちに武蔵野大学名誉教授。2005(平成17)年1月10日死去(98歳)。

全国に広がる 仏教讃歌の歌声

現在、研究所には届出団体として、約300の演奏団体が登録されています。このうち約2割が、教区や組、別院で結成された合唱団です(右図参照)。

また、仏教讃歌活動が盛んな教区では、連盟が結成され、年に一度演奏会や交流会を行っているところもあります。今回はその一部をご紹介します。

第19回仏教讃歌 コンサート(佐賀)

10月24日、佐賀教区で仏教讃歌のコンサートが開催されました。主催は、佐賀仏教讃歌の会。早い時期から教区規模での仏教讃歌活動が盛んであった佐賀では、1991年以来、毎回趣向を凝らした演奏会が開催され、今回で19回目を迎えました。

コンサートは、佐賀を拠点に活躍する演奏家の二重唱による《仏教式典序曲》(森川知史作詞・宇野正寛作曲)にはじまり、続く第一部では、重誓偈による音楽礼拝がつとめられました。今回初の試みとして、讃歌衆による混声四部合唱が導入され、満場のホールに荘重なおつとめが響きわたりました。



- ◆コール・蓮(山陰教区・神門組)
- ◆松山組仏婦コーラス「サンガエコー」(四州教区)
- ◆三次組仏教婦人会コーラス部(備後教区)
- ◆備後教区寺族婦人会ポーモリーズ(備後教区)
- ◆黒瀬和雅の会(安芸教区・黒瀬組)
- ◆コール・ブツダリーカ(山口教区・萩組)
- ◆大津東組仏教婦人会合唱団(山口教区)
- ◆岩国組コール・カラビンカ(山口教区)
- ◆コール・白れんげ(山口教区・玖珂西組)

- ◆滋賀教区寺族婦人コーラス「響流」(滋賀教区)
- ◆コール・サーラ(京都教区)
- ◆アナタ・ゴージャ(奈良教区)
- ◆むゆうげ(奈良教区・宇陀北組)
- ◆妙好華(大阪教区)
- ◆こうる・いしかわ(大阪教区・石川北組)
- ◆三郡組コーラスはすの花(大阪教区)
- ◆かりょうびんが鷲森(和歌山教区)
- ◆コール・か〜も(和歌山教区・加茂組)
- ◆ほほえみ(兵庫教区・阪神北組)
- ◆阪神東組香華コーラス(兵庫教区)
- ◆阪神西組合唱団(兵庫教区)
- ◆出石組聖歌隊コール・るーちゑ(兵庫教区)
- ◆阪神南組コーラス(兵庫教区)
- ◆佐用組寺族婦人会(兵庫教区)
- ◆野菊の会(高砂組仏教婦人会)(兵庫教区)
- ◆加古川組仏教婦人会連盟(兵庫教区)
- ◆赤穂北組寺族婦人コーラス(兵庫教区)

- ◆小倉YBA混声合唱団(北豊教区・小倉組)
- ◆門司みのり合唱団(北豊教区・門司組)
- ◆コーロ・サンガ(福岡教区・西嘉穂組)
- ◆三根組コールサンガ(佐賀教区)
- ◆田代組女声合唱団(佐賀教区)
- ◆巨瀬組コーラス「こぶしの会」(佐賀教区)
- ◆チャンダナ(熊本教区・八代組)
- ◆高鍋組讃歌のつどい(宮崎教区)
- ◆コール・サンガ(鹿児島教区)

第二部の個別演奏には、11団体が参加されました。仏教讃歌と自由曲、各1曲を演奏するステージです。歌うよろこびに満ちた演奏が、心温まるひとときをつくりだしていました。

第三部は、冒頭のゲスト演奏家による日本歌曲の演奏です。そして最後に、会場全体での大合唱。仏教讃歌《いのちまいにちあたらしい》の歌声が、会場となった佐賀県立美術館ホールに広がりました。

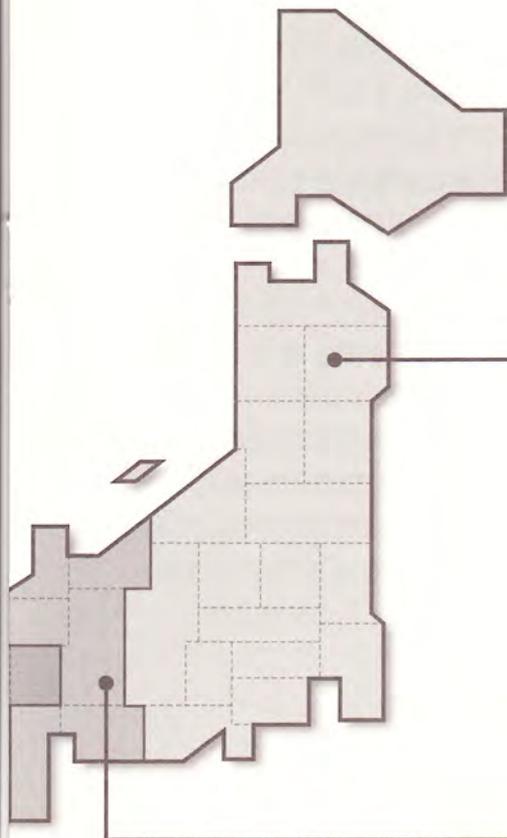
また今回のコンサートでは、仏華の展示会も併催され、来場者の関心を集めていました。この展示会では、仏華の生けられる過程が7つの工程に分けて見られるようになっており、演奏会とともに工夫に富んだ

催しとなっていました。

「20周年にむけて、教区内の合唱団体が一丸となって取り組んでいきたい」と語る熊谷昭美会長の言葉にも窺えるように、ますます気運の盛り上がりを見せる佐賀仏教讃歌の会。今後さらなる発展が期待されます。

第6回岐阜教区 仏教音楽交流会

岐阜では、教区や組での活動に刺激を受けて、各寺院でもコーラスがさかんになってきています。6月30日に行われた交流会には、東海教区や大谷派からの参加も含め、12団体が別院本堂に集い、歌声を披露しました。



- ◆本願寺札幌別院合唱団
「響流ざっぼろ」(北海道教区)
- ◆築地本願寺楽友会混声合唱団(東京教区)
- ◆慈光院女声合唱の集(東京教区)
- ◆とちなん合唱団(東京教区・栃木南組)
- ◆国府教区仏教婦人会
「合唱団こぶしの森」(国府教区)

- ◆富山本願寺合唱団(富山教区)
- ◆高岡教区仏教婦人会連盟コーラス
「瑠璃の響き」(高岡教区)
- ◆伏木組コーラス沙羅(高岡教区)
- ◆コール無憂華(福井教区)
- ◆コーラスのんの(福井教区・若狭組)
- ◆コール・デ・ナーモ(岐阜教区)
- ◆岐厚組音楽研究会シャーラ(岐阜教区)
- ◆朝明組仏教婦人会合唱団(東海教区)
- ◆三重組コーラス(東海教区)
- ◆萌木の響き(東海教区)
- ◆桑名組仏婦連盟こぶしの会(東海教区)

演奏後には、仏教讃歌の楽譜について情報交換する声も聞かれ、交流会を通して、おみのり・人・仏教讃歌の輪が着実に広まっている様子を見ることができました。



音楽礼拝の様



歌唱指導の様

は「キャンドルの集い」と題して音楽礼拝がつとめられ、満堂の名古屋別院本堂は荘厳な雰囲気。その後、10グループによる演奏と、歌唱指導が行われました。初出演の団体には温かい拍手が贈られ、参加者は仏教讃歌一色の充実した一日を過ごされていました。



音楽礼拝
「キャンドルの集い」



演奏の様

東海仏教音楽の集い 5th Stage

今年、5周年を迎えた「東海仏教音楽の集い」(7月2日)。開会式で

第16回仏教讃歌を歌う会 定期演奏会(安芸)

1994年より回を重ね、今回で16回目を迎えた安芸仏教音楽連盟の定

期演奏会。加盟団体が増えるにつれて参加団体も増え、一層の盛況を見せています。

演奏会は、個別演奏と合同演奏の2部構成で、第1部の個別演奏では、加盟の26団体が日々の練習の成果を発表しました。上手に歌って聴かせるだけの会ではなく、仏教讃歌の味わいを共にする会でもあるという趣旨のもと、各団体のいきいきとした演奏が聴かれました。

また、第2部の合同演奏では、オーケストラの伴奏で、約500人の歌声がホールに響きわたりました。今回の合同演奏にむけては2回の事前練習が行われたとのことで、ステージの熱気が客席まで伝わり、会場の聴衆も一緒に口ずさむ光景が見られました。「歌うよろこびを共に」という主催者の思いがひしひしと伝わってくる演奏会でした。



第2部合同演奏の様

「交流のひろば」は、合唱団の活動を紹介するコーナーです。写真やお手紙など、みなさんからのご投稿をお待ちしています。また、届出団体になっていただけますと、本願寺で行われる仏教音楽関連の催しのご案内、楽譜の発売情報などをお送りいたします。詳しくは事務局(Tel.: 075-371-9244)へお問い合わせください。

知っておきたい著作権

「著作権」とは

まずはじめに、「著作権」そのものについて、お話ししましょう。

一言で述べると、著作権とは、文化的な創造物¹に関わる諸々の権利の総称です。具体的には、思想や感情を創造的に表現した、文芸や美術、音楽などの作品に付随する権利のことで、一定の期間²、著作権法によって保護されています。

したがって、音楽作品など（以下「著作物」）の使用に際しては、権利者の許諾を得る必要があります。一般に「著作権料が発生する」と言われるのは、この使用許諾に対する対価のことで、著作権そのものが譲渡されるわけではありません。

著作権は誰のものか

著作物にかかる諸々の権利は、人格的な保護を対象とする「著作人権」と財産的な保護を対象とする「著作権（財産権）」に大別されます。

著作人権

公表権、氏名表示権、同一性保持権

著作権（財産権）

複製権、上演・演奏権、上映権、口述権等

これら権利の基本的な違いは、「著作人権」が譲渡不可であるのに対し、「著作権（財産権）」は譲渡可能なことにあります。すなわち「著作権（財産権）」については、著作者と異なる場合もあることに注意が必要です。

著作隣接権

また、著作物を使用（実演やその記録物を作成）することによって、今まで述べてきた「著作人権」「著作権（財産権）」とは別に、「著作隣接権」と言われる権利が発生します。

これは、著作物の伝達に重要な役割を果たす「実演者（演奏家など）」や「レコード制作（演奏家）」、「放送事業者」等に認められた権利です。

実演者の権利

氏名表示権、同一性保持権、録音・録画権、放送権等

レコード制作者の権利

複製権、譲渡権等

放送事業者の権利

複製権、再放送権等

では、「著作物」を正しく使うには、どうすればよいのでしょうか。

法律に則した著作物の使い方

著作物をめぐる権利は複雑かもしれません。しかし、法的に権利関係が明らかであることは、言いかえると、著作物を使用するには、原則として、権利者から許諾を得て、その対価（必要でない場合もあります）を支払えば使用できると考えられるでしょう。

むしろ判断に迷うのは、次の2つの場合です。

1 権利は消滅する

冒頭でも触れましたが、著作物が法律により保護されるのは、ある一定の期間です。その期間が過ぎれば、法律による保護が無くな

る。言い換えれば、著作権が消滅するということです。

日本の場合、基本的には著作者の死後50年までが、著作権による保護期間とされています。ただし、団体名義で公表されたものや、国外で発表された著作物³などは、保護期間が異なります。

2 許諾が不必要な場合

テープなどにCDから録音して個人で楽しむには許諾の必要はありません。しかし注意が必要なので、使用目的によっては、下記専門機関等に問い合わせることをおすすめします。

著作権全般

社団法人著作権情報センター
(CRIC)

音楽

社団法人日本音楽著作権協会
(JASRAC)

- 1 著作権法では、その対象を「思想又は感情を創作的に表現した物であつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属する物をいう」（著作権法第2条1項）と規定されています。
- 2 著作権は、著作物の創作者「著作者」が、著作物を創作した時点で自動的に発生し、その権利は原則的に著作者の死後50年まで保護されることになっています。
- 3 保護期間は各国によって異なります。日本が第二次世界大戦の敗戦国となったことにより、戦勝国の著作物に対し、保護期間が戦時期間分延長されるなどのケースがあります。

事例紹介

事例 1

合唱団で楽譜を1部購入し、団員に人数分複写して配付したい。
→複写が認められているのは、個人の練習用としてのみです。他人へ譲渡した時点で著作権法に反します。必ず、演奏人数分の楽譜を購入しましょう。

事例 2

楽譜が絶版となっており入手できないため、複写して配付したい。
→絶版となった楽譜でも、著作権が消滅しているとは限りません。さらに、絶版が版権の消滅を意味するとも限りません。複製にあたっては、それぞれ許諾が必要です。

事例 3

お気に入りの曲や合唱団で歌う曲の音源を、友達にコピーしてあげたい。
→音源のコピーは、個人的な使用を目的とする場合にのみに許可されています。他人への譲渡は、著作権法で禁止されています。

事例 4

購入したCDをお寺の法要で流したい。
→販売されているCDは、個人鑑賞を目的としています。公の場で流す場合には、原則として、許諾を得る必要があります。ただし、寺院の持つ非営利性に鑑みた場合、この限りではないと考えられますが、細かな判断が必要です。専門機関のJASRAC等へ問い合わせることをおすすめします。

事例 5

お寺でDVDを作るにあたって、市販CDの音源を使用したい。
→事例4に同じ。加えて版権にかかる許諾を得てください。

事例 6

仏教讃歌の歌詞をパンフレットに載せたい。
→著作権法は、歌詞も保護の対象としています。パンフレットを配付する行事等が、イベント性を伴う(例えば、入場料や出演者への謝礼などが発生する)場合は許諾が必要になります。

事例 7

他の人の楽曲を編曲して演奏したい。
→楽曲の内容を変えるには、著作人格権の関係で、著作者本人から許諾を得る必要があります。

御堂演奏会2010(予定)



御堂演奏会2009(春)の様

春と秋の2回(計4日間)開催いたしました御堂演奏会2009には、総勢1200名を超えるご参加をいただき、ありがとうございました。

来年度の予定は、下記の通りです。

【開催概要】

開催日：2010(平成22)年

春季 4月13日(火)・14日(水)

秋季 11月22日(月)・23日(火)

会場：本願寺阿弥陀堂

曲目：《みめぐみの》《み仏はほほえみて》

《生かされて》《あの空見れば》

《囁きたもう》《弥陀大悲の誓願を》

※楽譜の発刊と参加者の募集時期については、研究所のWebサイトや本願寺新報等でお知らせいたします。

御正忌報恩講奉讃演奏会2010(予定)

研究所では、御正忌報恩講の通夜布教前に奉讃演奏会を開催しています。毎年、多数の皆様にご来場いただき、心温まる仏教讃歌に親しんでいただいております。次回2010年は下記の内容で開催いたします。皆様のご来場をお待ちしております。

【開催概要】

日時：2010(平成22)年1月15日(金)

15:30開場 16:00開演

会場：聞法会館 3階 多目的ホール

プログラム：第1部 本願寺合唱団

第2部 声楽アンサンブル(ゲスト)

ほか



奉讃演奏会2009の様

研究所の主催行事

一緒に歌おう仏教讃歌

仏教讃歌に親しんでいただく機会として開催している「一緒に歌おう仏教讃歌」は、皆様より好評をいただいております。毎月第1水曜日(原則)、本願寺聞法会館にてお待ちしております。

参加をご希望の方は、当研究所事



練習風景

務局(075-371-9244)までお問い合わせください。

【2月・3月の活動予定】

日時：2010(平成22)年

2月3日(水)

11:00~12:00

会場：聞法会館総会所



ロビーコンサートの様

日時：2010(平成22)年

3月3日(水)

11:00~12:00

会場：聞法会館総会所

※1月はお休みです。

一緒に歌おう仏教讃歌 ロビーコンサートのお知らせ

日時：2010(平成22)年

3月24日(水)

12:20~12:50

会場：本願寺聞法会館
1階ロビー

曲目：《あの空見れば》
《いのち》《念仏》 他

大正琴用楽譜刊行中

好評の大正琴用楽譜シリーズは、現在第3期分まで無料にて配付しております。ご希望の方は、当研究所事務局までお問い合わせください。

第1期分

真宗宗歌／敬礼文／三帰依／念仏／恩徳讃（旧譜）

第2期分

みほとけにいだかれて／宗祖降誕会／報恩講の歌／光のなかに／恩徳讃（新譜）

第3期分

Namo Amida Butsu／聖夜／四弘誓願／のんのさま／衆会



大正琴用楽譜第3期分

リファレンス業務について

本願寺仏教音楽・儀礼研究所では、皆様からのご質問に、研究員がお答えするリファレンス業務を行っております。仏教音楽に関する質問や、演奏のための楽譜や伴奏用音源についてのお問い合わせを、お電話またはファクスにて受け付けております。なお、書籍およびCDなど刊行物の購入につきましては、本願寺出版社（0120-464-583）までお願いいたします。

〔リファレンス受付時間〕

宗務所業務日の
10:00 から 16:00 まで

※研究員の勤務状況等によって対応できない場合があります。

※皆様に正確な情報を提供するため、お問い合わせ内容の調査に時間を要する場合がありますことをご了承ください。

2009年度研究スタッフ

所長 小野 功龍(雅楽研究)

〔仏教音楽部門〕

主任・常任研究員

福本 康之(芸術学)

研究員 今小路聡子(声楽研究)

波々伯部宏彦

(アート・マネジメント)

山口 篤子(音楽学)

研究助手 戸田 直夫(音楽学)

客員研究員 尾家 京子(音楽教育学)

鈴木捺香子(合唱音楽研究)

委託研究員 荒川 恵子(音楽学)

石川紀久子(音楽学)

寺内 直子(芸術学)

藤田 隆則(芸術学)

藤林 由里(作曲編曲)

丸山 千晶

(ピアノ演奏研究)

研究生 田村菜々子(民族音楽学)

西田 佳代(声楽研究)

平成21年4月1日現在

(各五十音順)

●ニューズレターに“仏教儀礼編”が 加わります

2010(平成22)年
1月刊行予定

対談 本願寺茶房



亭主：大村英昭
おむらえいしやう



客人：釈 徹宗
しやくてつしやう

その他に…

- ・儀礼しています：東京教区教覺寺
- ・タイムスリップ大遠忌
——700回忌（昭和36年）
- ・はじめまして儀礼と申します

…ご期待下さい

テーマ：僧侶力は表現力
ちから

研究所編纂の刊行物



讃歌集二部合唱 1~6

【収録曲】

- 1 Namō Amida Butsu / ごおんうれしや / どこにもひかりが / なだめ / やさしさにであったら / 心のひと / いのち
- 2 聖夜 / 成道の歌 / 光のなかに / み仏のほほえみに / 求道の歌 / 私の中に / 念仏
- 3 衆会 / 芬陀利華 / 生きる / 青草は / いつか私は / ほほえみとともに
- 4 のんのさま / 咲き匂う / 山科の路 / 花のころ / そんなときわたしは / くちずさむ / 小さな灯 / いのちかが / やいて
- 5 みめぐみの / 太陽からの手紙 / 名もない今日を / あの空見れば / ありがとう / みほとけは / 弥陀大悲の誓願を
- 6 いのちまいにちあたらしい / しんらんさま / 千万の / み光りの / コスモスの花 / 憶念 / ひかりあふれて

【定価】 各本体500円+税



宗祖讃仰作法 音楽法要

【定価】

経本：本体300円+税(写真左)

楽譜：本体800円+税(写真右)



佛教讃歌(ピアノ伴奏付)

【定価】

本体1,600円+税



ほとけのこどものうた

幼児向け讃歌集

【定価】

本体2,000円+税

やさしく弾ける仏教讃歌 Vol.2 / Vol.3



電子オルガン用

【定価】

Vol.2：本体971円+税

Vol.3：本体1,000円+税



宗祖降誕奉讃法要 第一種

【定価】

経本：本体300円+税(写真右)

楽譜：本体500円+税(写真左)



仏教讃歌一歌集一

コード付

【定価】 本体700円+税



電子オルガン用仏教讃歌中級編

【定価】 本体2,000円+税



メロディーの宝石箱

仏教讃歌解説集

【定価】 本体1,500円+税

刊行物のご注文は本願寺出版社まで
フリーダイヤル
0120-464-583
ホームページ
<http://hongwanji-shuppan.com/>

仏教音楽

本願寺仏教音楽・儀礼研究所 ニュースレター 第9号

発行日：2009（平成21）年11月30日

編集：本願寺仏教音楽・儀礼研究所

発行者：浄土真宗本願寺派 教学伝道研究センター 所長・浅井成海

〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92番地 本願寺第3庁舎内

Tel. : 075-371-9244 Fax. : 075-371-5761

<http://crs.hongwanji.or.jp/ongi/>

頒 価：無料